塩ビと環境のメールマガジン VEC
No. 670
発行年月日：２０２０／４／１６

今週のメニュー

■トピックス
◇「塩ビの火災安全―火災から身を守る」小冊子を発行！
■随想
◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（４３）【素戔嗚尊と氷川神社】

木下 清隆

■トピックス

◇「塩ビの火災安全―火災から身を守る」小冊子を発行！

2019 年 4 月に、ISO/TR 20118 “Plastics — Guidance on fire characteristics and fire performance of PVC materials and products used in building applications” 「（仮訳）プラスチック―建築用途で使用される PVC 材料及び製品の燃焼特性及び燃焼性能の手引」が発行されました。これを翻訳して、建築材料や塩ビ樹脂（塩ビ=PVC）製品の製造・設計・施工業者並びに防火管理などに携わる方を対象者として、塩ビの燃焼特性や火災安全性について理解を深めていただけるように、そしてガイドブックとしてお役に立てられるように取りまとめ、小冊子「塩ビの火災安全―火災から身を守る」を 4 月 1 日に発行しました。

ISO/TR20118 は、テクニカルレポートとして、ISO/TC61/SC4 によって作成されました。ISO/TC61 は ISO（国際標準化機構）の中のプラスチックに関する ISO 規格化を行っています。TC61 には、SC1（用語）、SC2（機械的性質）、SC4（燃焼挙動）、SC5（物理化学的性質）、SC6（経年変化及び耐環境性能）、SC9（熱可塑性プラスチック）、SC10（発泡プラスチック）、SC11（製品）、SC12（熱硬化性プラスチック）、SC13（複合材料）の 10 の小委員会（Sub-Committee：SC）があります。SC4 が、プラスチック材料及び製品並びにプラスチックを含む製品の燃焼挙動と耐火性能、及び火災安全評価に関する ISO 規格の制定を行っています。このテクニカルレポートは、建築用途で使用される塩ビ製の材料及び製品の燃焼特性と燃焼性能に関する情報を提供するものです。

塩ビは、素材として難燃性（火炎を遠ざけると自己消火性がある性質）という特徴があるため、建築材料において広く使用されています。これまでも、塩ビに関する燃焼特性や防火性能に関する情報提供のニーズがあったことから、今回 ISO/TR20118 が発行されたこ

とを機会に、塩ビの火災安全に関するガイダンス（小冊子）を作成することとしました。本冊子は、塩ビの燃焼特性及び塩ビが持っている防火性能の応用例を知っていただくために二部構成にしました。制作に当たっては、上記 ISO/TC61/SC4 に日本代表として参加し、対応する国内委員会の主査をされている（一財）日本舶用品検定協会の吉田公一氏に監修をお願いしました。

本冊子は、以下の内容から成っています。
１．ISO/TR 20118（塩ビの燃焼特性）の翻訳
２．各用途分野での防火事例

「１．塩ビの燃焼特性」については、燃焼熱、燃焼生成物、着火性、酸素指数、燃焼発熱量、火炎伝播、煙の発生、煙による被害、煙の腐食性、塩化水素濃度、炭化物形成と熱膨張の各項目に分けて、基本特性の試験方法やその測定例・文献情報等を引用して解説しています。
「２．各用途分野での防火事例」については、「船舶での事例」、「建築での事例」、「生活製品での事例」、「塩ビ電線・ケーブル」の各項目について記載しています。「船舶での事例」及び「塩ビ電線・ケーブル」については前出の吉田公一氏、「建築での事例」については国土交通省 国土技術政策総合研究所 建築研究部防火基準研究室の成瀬友宏氏、並びに「生活製品での事例」については国立大学法人信州大学繊維学部の若月薫氏に執筆をお願いしました。

本冊子は VEC のホームページに掲載して閲覧できるようにしています。
http://www.vec.gr.jp/lib/pdf/fire_protection.pdf
皆様のお役に立てていただければ幸いに存じます。

「塩ビの火災安全」の冊子をご希望される方は、以下までご連絡ください。
VEC お問い合わせ先：info@vec.gr.jp
TEL　03-3297-5601　　FAX　03-3297-5783

■随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（４３）

木下 清隆

【素戔嗚尊と氷川神社】
＜前回とのつながり＞
前回までに、全国に四つある櫛田神社の検討が終わったので、今回からは素戔嗚尊（すさのおのみこと）についての検討を始めることにする。これまで櫛田神社の祭神は櫛玉命であることを論じてきたが、この櫛玉命と素戔嗚尊との関係を明らかにするためである。その鍵となるのは、埼玉県大宮の氷川神社である。

第四章　素戔嗚尊

１　氷川神社

大宮氷川神社

博多の櫛田神社に素戔嗚尊が山城の祇園社から勧請されたのは、社伝に由れば、天慶四年(九四一)のこととされている。藤原純友が乱を起こしたとき、朝廷は小野好古らを追捕使に任命し、これを討たせた。このとき好古は戦勝を祇園社に祈願し、その後、事の成就したお礼に、戦場となった博多の地に素戔嗚尊を勧請したとみられる。以来、博多の櫛田神社は幾多の変遷はあったものの、祇園祭を中心にして大きく発展して行くことになる。櫛田神社と素戔嗚尊に関しては、勧請の由来や時期等について特に疑問となるようなものはないが、素戔嗚尊そのものは大きな謎に包まれている神である。日本書紀によれば、素戔嗚尊は高天原において姉の天照大神にさんざん悪さをし、終にそこを追放されたことになっている。要するに独りで悪役を引き受ける役回りになっている。ところがこの素戔嗚尊に対する天皇家の態度は、決して記紀に書かれているようなものではない。むしろ崇敬の念は極めて篤いと言えるのである。

江戸から明治の御世に替わったとき、真っ先に明治天皇の行幸があったのが武蔵国の氷川神社(現、さいたま市大宮区)である。明治元年、天皇によって当社を「武蔵国鎮守勅祭社」と定める勅書が発せられ、同年十月二十八日に天皇親(みず)からの祭儀が執り行なわれた。その勅書の内容は、「氷川神社」『日本「神社」総覧』(新人物往来社、一九九二)によれば次のようなものである。

> 「勅す、神祇を崇め、祭祀を重んずるは、皇国の大典にして政教の基本なり。然るに中世以降、政道漸く衰えて、祀典究(あが)らず。遂に綱紀の不振を馴致せり。朕深く之を慨く。方今更始の秋(とき)、新に東京を置き、親臨して政を観、将に先ず祀典を興し、綱紀を張り、以て祭政一致の道を復さんとす。乃(すなわ)ち武蔵国大宮駅氷川神社を以て当国の鎮守と為し、親幸して之を祭る。自今以後、歳ごとに奉幣使を遣し以て永例と為さん。」

とあり、要するに氷川神社を武蔵国の鎮守とすることが宣言されている。武蔵国とは、おおよそ現在の東京都・埼玉県・神奈川県の一部を合わせた地域である。この氷川神社の祭神こそ素戔嗚尊なのである。従って、以上の勅書は、素戔嗚尊を武蔵国の守護神とすることが宣言されていることになる。では、何故、素戔嗚尊をこれほどまでに天皇家は尊崇するのかという疑問が当然起きてくる。これに対する答としては、古来、天皇家は素戔嗚尊若しくは、その近縁の神を親しく祀っていたからだ、としか考えられないことになる。そうでなければ悪役と位置付けられているような神を、更には、今まで祀りもしなかった神を新都の守護神にするなど、到底考えられないことだからである。しかも氷川神社は東京から 30km も北西に位置するのである。このような天皇家の行動を見るとき、記紀に書かれている内容と天皇家に伝わっている伝承との間には、大きな開きがあるとしか考えられないことになる。

この氷川神社は、社伝によれば、第五代孝昭天皇三年の創建であると伝えられている。成務天皇の御代に出雲族の兄多毛比(えたもひ)命が朝命により武蔵の国造となり、氷川神社を奉斎

したという。このような経緯から当地方は出雲族との係わりが深いとされている。社伝にある孝昭天皇、成務天皇等は実在が疑われている天皇であることから、氷川神社の創建は伝承ほどには古くはないはずであるが、それでも軽く六世紀に遡る歴史を有する神社と考えられる。理由は安閑天皇元年（五三四）に武蔵国造が同族内で争い、朝廷が裁定を下す事件が発生しているからである。安閑天皇は継体天皇の後継者と考えられている天皇で、六世紀前期の天皇である。国造一族の内訌が発生しているくらいだから、当時の武蔵国は相当に拓けていたと考えられ、この地の開発に出雲族が拘わっていたとするなら、彼らの守護神として氷川神社が既に存在していたとしてもおかしくないからである。

２　賀茂神社

では御所が平安京、即ち現在の京都に在ったとき、この山城国の鎮守の社はどこだったのだろうか。それは、葵祭で有名な賀茂神社なのである。延暦三年(七八四)、桓武天皇の長岡京遷都を機に、この神社は「王城鎮護の神社」に昇格した。更に延暦十三年(七九四)に平安京に遷都されるに及び、この神社は名実共に新都と一体化した祭祀の中心となった。これ以降、朝廷は賀茂神社を伊勢神宮に次ぐ礼をもって遇し、嵯峨天皇の時代には斎王を置くまでになる。なお、この賀茂斎王は、後に伊勢の斎宮に対し、斎院と呼ばれるようになる。

上賀茂神社

下鴨神社

賀茂神社は上賀茂と下鴨とに分かれており夫々、賀茂別雷神社（かもわけいかずちじんじゃ）、賀茂御祖神社（かもみおやじんじゃ）という。その祭神は上賀茂が賀茂別雷神で、下鴨が雷神の母親である玉依媛命と祖父の賀茂建角身命（たけつぬみのみこと）となっている。本来、賀茂神社の祭神は賀茂別雷神であって、下鴨の御祖神社は後から創建されたものとされていることから、ここではこの賀茂別雷神についてのみ論議の対象とする。

天皇家が平安京にあった時代、守護神として祭祀されてきた賀茂別雷神と素戔嗚尊とはどのような関係があると見なされていたのだろうか。何か関係があるはずであり、何も無ければ明治天皇の行動の説明がつかないことになる。

（つづく）

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>>（筆者）

「古代ヤマトの遠景」：バックナンバー

■関連リンク

●メールマガジンバックナンバー
●メールマガジン登録
●メールマガジン解除

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。

VINYL ENVIRONMENTAL COUNCIL
VEC 塩ビ工業・環境協会

■東京都中央区新川 1-4-1
■TEL 03-3297-5601　■FAX 03-3297-5783
■URL http://www.vec.gr.jp　■E-MAIL info@vec.gr.jp